

# 第4期 下呂市観光計画

下呂市役所観光課

## 第4期下呂市観光計画 目次

- 1 計画の概要
- 2 下呂市の概況と観光資源等
- 3 下呂市の広域観光の状況
- 4 下呂市の現状と課題
- 5 基本コンセプト・基本施策
- 6 地域別施策



## 第4期下呂市観光計画

### 1 計画の概要

#### ■下呂市観光計画とは

下呂市は合併前の5つの町村毎に地域の特色があり、観光客の客層・人数、観光の種類やテーマ、また、観光サービスの形態も様々です。そうした状況において、公正・公平かつ効果的な観光施策を進めるためには、多くのステークホルダーを巻き込み、合意形成の図られた指針が必要不可欠です。

平成21年度に多くの市民、観光事業者が参加する下呂市観光計画策定委員会が組織され、1年間議論を重ねながら下呂市観光計画がまとめられました。また、平成22年3月には「ホスピタリティ都市」宣言を行いました。下呂市観光計画の計画期間は5年間であり、第1期計画は平成22年度から平成26年度まで、第2期計画は平成27年度から令和元年度、第3期計画は令和2年度から令和6年度と3期が経過しております。

この上位計画として下呂市総合計画、関連計画には下呂市エコツーリズム推進全体構想等があります。

#### ■下呂市の観光の取り組み

第1期(平成22年度～平成26年度)には、東日本大震災、御嶽山の噴火の大きな自然災害や関越自動車道におけるバス事故等が負の外的要因として現れ、下呂温泉の宿泊者数が100万人を割ってしまう等、誘客に大きな影響がありました。しかしながら下呂市観光客特別誘致対策協議会の構成団体で役割分担を明確化し、一般社団法人下呂温泉観光協会の誘致宣伝委員会では観光統計のデータを重視し、関係団体との情報共有に努める等、後のDMOの構築につながる体制づくりを行いました。また、入湯税を観光誘客事業に充当することで、安定的な観光予算の確保が可能となりました。

第2期(平成27年度～令和元年度)には、地方創生臨時交付金等を活用し、一般社団法人下呂温泉観光協会のDMO化や下呂市エコツーリズム推進協議会の立ち上げ等、新たな観光課題への対応に向け、さらに高度な体制構築に努めました。観光市場が団体旅行から個人旅行へシフトする流れをつかみ、オンライントラベルエージェント(OTA)を効果的に活用しました。また、観光客のニーズを的確にとらえ、素肌美人スイーツの取り組みにより下呂温泉街での食べ歩きが一大トレンドとなりました。

第3期(令和2年度～令和6年度)は新型コロナウイルスの蔓延により、観光産業には大きな逆

風となりました。令和元年度まで好調だったインバウンド観光客も皆無となり、年間の宿泊者数も半減(R2～R3年度)しました。こうした状況でもDMOが中心となりデータ分析による的確なプロモーションを行い、R4年度には年間宿泊者数がコロナ前に比較して約9割まで回復しました。また、その間に着地型観光商品、各種体験プログラムを網羅したサイト「下呂温泉郷+」を立ち上げ、下呂温泉を中心に集客しながら周辺地域へ波及させるという仕組みが構築されつつあります。

下呂市第三次総合計画基本計画においては「観光消費が向上し、地域経済が活性化しています」を2040年に向けた目指す未来の姿として掲げています。

#### ■第4期計画の期間と目標

第4期計画は、令和7年度を初年度とし、令和11年度を目標年次とする5年間の計画です。

受入体制・滞在環境等の向上、持続可能な観光地づくりにより、下呂市の観光の価値を高め、地域経済を活性化させていくことを狙いとしています。計画に沿って事業展開し、適宜成果の検証を行いながら目標達成を目指すものです。

本計画では、年間観光宿泊客数130万人を目標としています。

#### 【KPI】

(単位:人)

目標年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
市内宿泊者数	1,050,000	1,110,000	1,170,000	1,230,000	1,300,000
下呂温泉宿泊者数	1,000,000	1,050,000	1,100,000	1,150,000	1,200,000
日帰り利用者数	90,000	95,000	100,000	105,000	111,000
インバウンド	140,000	160,000	180,000	190,000	200,000



## 2 下呂市の概況と観光資源等

面積:851.21km<sup>2</sup>

人口:28,768人(R7.3.1現在)

沿革:平成16年3月1日に旧益田郡の萩原町、小坂町、下呂町、金山町、馬瀬村の4町1村が合併(当時の人口39,822人)

主な観光資源:下呂温泉、足湯めぐり、素肌美人スイーツ、下呂温泉合掌村、地歌舞伎、舞妓・芸妓(下呂地区)、御嶽山、巖立峡、小坂温泉郷(小坂地区)、飛騨街道萩原宿、飛騨川公園、南ひだ健康道場(萩原地区)、金山巨石群、横谷峡、岩屋ダム(金山地区)、馬瀬川、里山ミュージアム(馬瀬地区)

食:飛騨牛、米、地酒、ケイちゃん、鮎、溪流魚、トマト、茶、蒟蒻、きのこ、あねかえし、朴葉寿司、ねずし、五平餅

体験メニュー:和服散策、さるぼぼづくり、冬のライトアップ(下呂地区)、小坂の滝めぐり(小坂地区)、歴史探訪ツアー(萩原地区)、鮎釣り体験、火ぶり漁、アスレチック(馬瀬地区)、筋骨めぐり、蛍石ツアー、カヤック・SUP、ボルダリング(金山地区)

## 3 下呂市の広域観光の状況

### ■広域連携による誘客促進

様々な地域と連携したプロモーション活動を行うことで、それぞれの多彩な魅力によって誘客につなげることができます。下呂市は特に宿泊地、温泉地という強みによって観光のハブという位置づけを目指しています。

### ■主な広域連携協議会

団体名:飛騨地域観光協議会

構成員:高山市・飛騨市・白川村及び岐阜県

概要:岐阜県内の主要観光地は飛騨地域に集中しており、その連携により国内では都市部に向けたプロモーション活動を、海外に向けては欧米豪誘致や通訳案内士の育成を行う。

主な事業:鉄道事業者との連携による誘客事業、マイカー利用者向けプロモーション事業、都市部におけるプロモーション事業、海外誘致プロモーション事業、通訳案内士の育成等

団体名：飛騨観光宣伝協議会

構成員：高山市・飛騨市・白川村及び民間事業者 ※事務局は東海旅客鉄道株式会社

概要：JR 東海が高山本線の利用促進を目的に結成した協議会。JR 東海ツアーズによる旅行商品の造成や TVCM の放映を行う。

主な事業：駅貼りポスター・サイネージ広告の制作、広告出稿、インバウンドファミトリップの実施等

団体名：下呂・中津川広域観光振興協議会

構成員：中津川市及び民間事業者

概要：リニア中央新幹線の開業を見据え、下呂市と中津川市が連携して首都圏へのプロモーションや2市の観光ルートの開発を行う。

主な事業：首都圏プロモーション事業、ツアー造成支援事業、インバウンド誘致事業等

団体名：岐阜・下呂・郡上観光宣伝協議会

構成員：岐阜市・郡上市

概要：東アジア、東南アジアをターゲットとしたインバウンド誘致を行う。特にレンタカーを利用した周遊促進を目指す。

主な事業：現地旅行会社を活用したプロモーション事業、インターネット広告への出向、インフルエンサーの招聘等

その他、インバウンド誘致を行う尾張藩連携事業協議会（名古屋市ほか）、飛越能経済観光都市懇談会（高岡市ほか）や、国定公園エリアを PR する飛騨木曾川国定公園連絡協議会（犬山市・美濃加茂市ほか）があります。

#### 4 下呂市の現状と課題

##### ■ポストコロナ期の観光市場と地域経済について

令和元年度末から始まった新型コロナウイルスによるパンデミックにより、国内外の旅行市場が停滞し、令和2年度の下呂市の宿泊者数は548,929人と通常時の半分ほどまで減少しました。その後、個人旅行者の取り込みに注力し、令和5年度には1,009,634人まで回復しています。宿泊旅行者の消費が各産業に与える経済波及効果は大きく、幅広い産業の生産誘発に影響を与えております。よって引き続き宿泊客数、観光GDPの増加により、市内の経済を牽引することを目

指します。

下呂市と下呂温泉宿泊者数の推移(単位:人)

	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
下呂市 宿泊者数	1,069,808	1,133,464	1,148,582	1,202,097	1,162,449	1,152,971	548,929	621,419	978,141	1,009,634
下呂温泉 宿泊者数	984,501	1,042,570	1,048,243	1,104,404	1,080,063	1,037,616	512,498	582,564	931,432	963,258
下呂温泉旅館 日帰り利用者数	124,060	105,473	155,893	148,192	142,803	131,787	58,905	67,198	79,950	88,522
インバウンド 宿泊者数	41,159	94,947	89,358	111,180	130,426	119,896	217	82	19,482	89,025

#### ■新たな観光課題への対応

新型コロナウイルスの影響で従来の観光スタイルが大きく変化し、団体旅行から個人旅行へのシフトが顕著となりました。また、スマートフォン等の保有率が高くなっていることから、観光情報の発受信方法や媒体も個人化・細分化され、より細やかでヴィジュアルを重視したプロモーションが求められています。こうした誘客戦略の変革や、インバウンドの増加等を起因としたオーバーツーリズム問題等、新たな観光課題への対応が必要となっています。例えば、下呂温泉街の混雑緩和にはサインの見直しや案内ツールの導入が有効かもしれません。そうした課題への迅速な対応に向け、宿泊税や入湯税を有効かつ適切に活用していきます。

## 5 基本コンセプト・基本施策

#### ■基本コンセプト

下呂市を代表する温泉地、日本三名泉の下呂温泉には約1,000年の歴史があり、古来より湯治客で賑わってきました。そうした外からの来訪者をお迎えする「おもてなしの心」が根付いた地域です。

現代においても、おもてなしは下呂市の観光で最も大切にすべきことであり、平成22年3月29日には「下呂市ホスピタリティ都市宣言」を行いました。下呂市観光計画では、基本コンセプトを「下呂市を訪れるすべての人をおもてなしの心で迎えるホスピタリティあふれるまちづくり」として、下記の項目を全体テーマとして掲げています。

- 市民が共通の意識を持ち、一体となってお客様をもてなすことができるホスピタリティあふれるまち
- 地域の自然や歴史・文化を理解し、次世代へ守り受け継ぎ、誇りを持って案内できる観光教育の充実
- 観光産業の地域経済への効果を測定し、市民の関心度・理解度を向上

## ■基本施策

### 施策1 川・木・温泉でリデザインする観光と日常の新機軸

観光経済新聞が主催する「にっぽんの温泉地 100 選」で下呂温泉は、2020 年3位、2021 年～2023 年2位、2024 年3位と推移しています。カテゴリ別のランキングでは「泉質」、「郷土料理・ご当地グルメ」の順位が高い反面、「雰囲気」、「見所・レジャー&体験」が低いという結果となっています。

こうした結果を課題ととらえ、歴史的な背景から地域にふさわしい景観の在り方を住民や事業者を交え検討しています。また、空き家・空き店舗等の活用を促進し、にぎわいづくりを後押しするような支援制度の創設を目指しています。

#### 主な施策：

- 飛騨街道を中心とした歴史的資源の掘り起こしによる景観ルールの策定と景観整備促進
- 空き家・空き店舗の活用による新たなにぎわいづくりに向けた制度・体制の整備
- 歴史的資源のリデザインによる河川空間の再生、イベント開催スペースの再検討

### 施策2 観光振興団体による誘致促進の強化・支援

下呂市の観光推進体制の中心には、国から「先駆的 DMO」に選定された一般社団法人下呂温泉観光協会があります。客観的データに基づいたマーケティングとプロモーション、そして観光地マネジメントは国内でも先進的な取り組みとして評価されています。こうした観光振興団体を支援し、推進体制の強化、高度化を目指します。

また、下呂温泉花火ミュージカル冬公演実行委員会等のイベント実施団体や下呂市コンベンションビューローの活動を支援し、MICE による誘客につなげます。

#### 主な施策：

- 観光マネジメント体制の運用支援による、情報共有と合意形成の場の構築
- 客観的データを重視したマーケティングと効果的なプロモーションによる集客活動

## ○コンベンション誘致の促進、イベントを活用した効果的な誘致活動の強化

### 施策3 観光客受入体制・滞在環境の整備

一般社団法人下呂温泉観光協会が令和6年度に実施した下呂市に来訪した観光客向けの「位置情報を活用したアンケート調査」の中で「困ったこと・嫌だったこと・改善したほうがいいこと」という設問のうち、回答が多い事項については観光地の課題と捉え、早急に改善していく必要があります。最も多かったのが駐車場に関すること。どこにあるのか分かりにくい、空き情報をリアルタイムで知りたい等の意見がありました。

次いで温泉、アクセス（二次交通他）、道路（案内が少なく迷う他）、飲食店（混んでいる、早く閉まる他）、食べ歩き（混んでいる、お店が少ない他）、夜間（早く閉まる、街灯が少ない他）、観光（見どころ、アクティビティが少ない他）、駅（待合スペースがない他）及びトイレ（少ない、設備が古い他）の順となっており、改善に向けた具体的な事業を盛り込むための施策を検討しています。

主な施策：

- 適切なサイン整備、観光 DX ツールの導入等による観光客の利便性向上
- 観光施設の適切な管理による観光客の滞在環境の快適化、満足度の向上とリピーター対策
- 農泊、ナイトエコノミー等の推進による多様な受け皿の整備、観光 GDP の増加

### 施策4 広域連携による多様な誘客活動の実施

観光庁、中部運輸局等の国の機関や岐阜県庁または周辺自治体と連携し、補助事業の活用や広域協議会による限られた予算を最大限に活かすような取り組みを行っていきます。特に首都圏等の都市部におけるプロモーションやインバウンド誘致の効果が期待できます。

主な施策：

- 県・国・近隣自治体・公民連携等のネットワーク強化
- 下呂市単独では成しえない都市部、海外等へ向けたプロモーション活動の実施
- リニア開通、アクセス整備等を見据えたハブ機能の強化、広域周遊ルートづくり

### 施策5 横断的な連携による持続可能な観光地づくり

下呂市の観光による経済効果を全域に波及させ、持続可能な観光地づくりにつなげます。そのためには様々なステークホルダーと連携し、商工・農業・環境・教育等の横断的な取り組みが必要です。また、集客による過度な利用により観光資源が劣化・滅失等しないように下呂市エコツアー

ズム推進全体構想等でルールを定め、資源の保護・保全に努めています。

また、持続可能な観光地づくりを可視化するため、外部認証機関による認証取得にも取り組みます。これによりエシカル消費の呼び込みやインバウンド市場におけるサステナブルな destinations としての認知度向上につなげます。

主な施策：

- エコツーリズムの推進による観光資源の保全及び周辺地域への波及効果の創出
- JSTS-D 等の認証取得によるサステナブル destinations の確立
- 横断的な連携による関係人口の構築やアップサイクル事業等、持続可能な観光地づくりの推進

#### 施策6 国外誘客事業の促進（インバウンド）

下呂温泉宿泊調査によれば、令和5年度のインバウンド宿泊者数は 89,025 人で全体の 9.2%を占めます。令和6年度においては 12%以上となる見込みで、宿泊需要のコントロールによる宿泊施設等の雇用の安定、ひいては経営の安定にもつながることから、今後ますます平準化に向けてインバウンド誘客に力を入れる必要があります。

また、下呂温泉に宿泊するインバウンド客のうち、台湾、中国、香港及び韓国の東アジアからの来訪が約 75%も占めています。欧米豪等、他地域への誘致活動にも取り組み、その偏りを抑えていく必要があります。

主な施策：

- 国・県・近隣自治体・IPT（インバウンドプロジェクトチーム）と連携した国外誘客活動の実施
- 地域資源の魅力の深掘りによる高付加価値化や富裕層向けの高単価商品の開発
- 観光情報の多言語化による利便性の確保や災害時対応の確立



## 6 地域別施策

### 【小坂地域】

#### 宿泊者数

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
宿泊者数(人)	29,249	16,214	18,518	21,189	17,841
市内割合(%)	2.7	3.0	3.0	2.2	1.8

#### 観光入込数

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
入込者数(人)	179,642	113,629	124,569	144,867	85,826
市内割合(%)	7.0	8.8	8.8	7.0	4.1

小坂地域(旧小坂町エリア)は御嶽山の麓に位置し、溶岩台地等の特有の地形により無数の滝が点在しています。また、濁河温泉、下島温泉、湯屋温泉という下呂温泉とは泉質の異なる温泉が湧出しており、合わせて「小坂温泉郷」として、環境省の国民保養温泉地に指定されています。

合併前から滝の調査が行われており、その結果、落差が5m以上の滝が216ヶ所もあり「日本一滝の多い町」として喧伝しています。数ある滝の中でも「根尾の滝」は日本の滝百選に選ばれており、また、江戸時代の水墨画にも描かれていることから古くから名瀑として認知されていたようです。

滝を活かした観光まちづくりが進められ、平成18年に発足したNPO法人飛騨小坂200滝を中心に滝めぐりのコースやガイドツアーのプログラムがつけられました。また、がんだて公園では観光客から環境協力金の徴収を行い、遊歩道等の維持・修繕や植生調査などに充てられています。また、シャワーライミングや氷瀑ツアーなどのアクティビティツアーを販売するガイド会社も立ち上がりました。そうした活動が認められ、平成20年には「岐阜の宝もの」第1号に、令和4年には「NEXT HERITAGE 岐阜未来遺産」に認定されています。

濁河温泉は御嶽山の7合目、標高約1,800mに位置する日本で最も高所にある温泉地です。泉質は炭酸水素塩泉(ナトリウム・カルシウム-炭酸水素塩・硫酸塩温泉)で鉄分を含んだ茶色い濁ったお湯が特徴です。神経痛、動脈硬化症、高血圧症などに効果があります。下島温泉、湯屋温泉はがんだて公園周辺に位置しており、いずれも「炭酸泉」としてPRしていますが、温泉法上では下島温泉は含鉄泉(含鉄(2)-ナトリウム-炭酸水素塩・塩化物鉱泉)で、湯谷温泉は炭酸水素塩泉(含二酸化炭素・ナトリウム-炭酸水素塩・塩化物泉)です。どちらの温泉も飲泉可能

であり、飲泉場で温泉を汲むことができます。それをお粥や湯豆腐に使う鉱泉メニューが人気です。下島温泉の効能は、神経痛、切り傷、消化器病、火傷、皮膚病など、湯屋温泉は神経痛、動脈硬化症、慢性消化器病、胃腸病などです。

#### 主な地域課題

- ・地域内の推進体制強化
- ・各資源、商品のパッケージ化
- ・二次交通の整備



## 【萩原地域】

### 宿泊者数

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
宿泊者数(人)	9,249	6,924	9,498	11,321	13,108
市内割合(%)	0.8	1.3	1.5	1.2	1.3

### 観光入込数

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
入込者数(人)	126,841	76,738	84,875	91,934	118,488
市内割合(%)	5.0	6.0	6.0	4.4	5.6

萩原町は、豊かな自然と歴史的な魅力が共存する地域です。飛騨川の清流や山々に囲まれ、四季折々の美しい景観が楽しめます。特に、桜の名所が多く、春には桜のライトアップやイベントが行われています。

歴史的な側面では、南北に東山道飛騨支路(旧飛騨街道)が通っており、古くから交通の要衝として栄えてきました。位山峠には官道の跡地として石畳の道が整備されています。また、神社仏閣や戦国時代に築かれた城の遺構等、観光資源となりうる文化財が多数あり、散策ガイドツアーやサイクリングツアーで楽しむことができます。江戸時代に創業した造り酒屋では酒蔵見学やどぶろく造り等が人気です。

近年では、ドラマのロケ地となった飲食店が聖地巡礼による来訪で賑わいを見せており、また、現代アートのイベント「南飛騨アートディスカバリー」が開催されたことから全国のアートファンが来訪しました。多様化する観光客のニーズに応えながら、サービスを充実させることが課題となっています。

### 主な地域課題

- ・地域内の推進体制強化
- ・体験プログラム、ツアー商品の造成
- ・地域産品の開発



## 【下呂地域】

### 宿泊者数

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
宿泊者数(人)	1,039,113	513,540	582,564	931,804	966,845
市内割合(%)	94.2	93.6	93.7	95.3	95.8

### 観光入込数

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
入込者数(人)	1,898,975	940,493	1,030,443	1,579,936	1,697,809
市内割合(%)	74.3	73.1	73.2	76.2	80.6

日本三名泉の一つに数えられる下呂温泉は、飛騨川沿いに旅館やホテルが立ち並び、風情ある街並みが楽しめます。足湯や共同浴場もあり、気軽に温泉を満喫できます。その歴史は古く、室町時代から湯治場として栄えてきました。前述のとおり「にっぽんの温泉100選」で下呂温泉は、2020年3位、2021年～2023年2位、2024年3位と推移しています。

泉質はアルカリ性単純温泉。無色透明でやわらかく、肌に優しいのが特徴です。「美人の湯」とも呼ばれています。効能は神経痛、筋肉痛、関節痛、疲労回復、冷え性など。

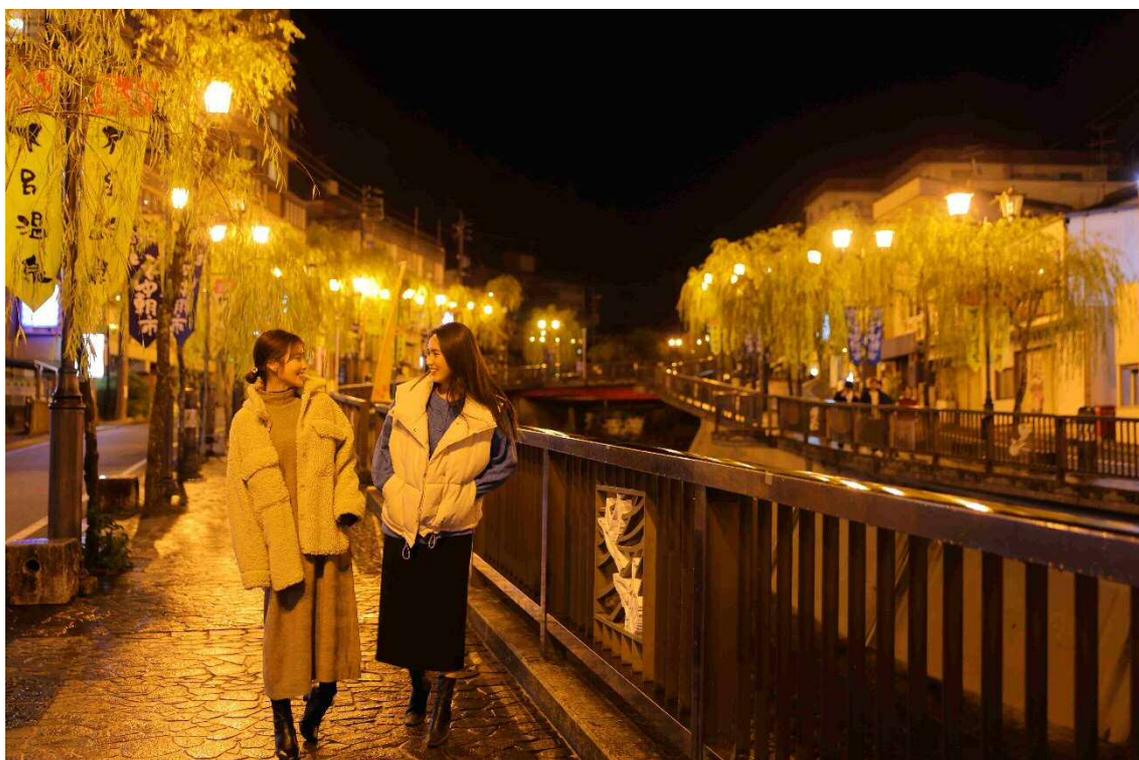
温泉街には約50軒の宿泊施設があり、1日に7,000名ほど収容可能です。温泉は複数の源泉井戸をひとつのタンクに集め、そこから約55℃で宿泊施設等へ送湯する集中管理システムを導入しており、持続的な温泉供給のために省資源化が図られています。

観光客誘致に向け、データを活用した的確なニーズ把握や、関係者の合意形成による強力な地域マネジメントなど、観光推進体制にかかる先進的な取り組みが進められています。例えば、閑散期対策のために始めた冬の花火大会の効果で、12月から3月の宿泊者数が増加傾向にあります。また、温泉街では美肌スイーツの開発をキッカケに食べ歩きとSNS投稿が人気となり、若者の集客に成功しています。一方で、温泉街の一部に観光客が集中する、温泉街の駐車場が混雑する等、今後はオーバーツーリズムへの対応も必要となっています。

旧下呂町の下呂温泉以外の地域、竹原、上原、中原は中山間地域で、ブランド米の「銀の舂」やトマトの栽培等の農業が盛んです。近年では、こうした農山村資源と観光を結び付ける「農泊」を推進する動きがあり、下呂温泉と合わせてゆっくり滞在できるような農泊プログラムが検討されています。

### 主な地域課題

- ・観光客の平準化（季節、周遊箇所等）
- ・受入環境整備
- ・観光消費額の最大化



## 【金山地域】

### 宿泊者数

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
宿泊者数(人)	5,390	2,816	3,049	3,479	2,405
市内割合(%)	0.5	0.5	0.5	0.4	0.2

### 観光入込数

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
入込者数(人)	272,787	117,419	132,419	197,245	136,709
市内割合(%)	10.7	9.1	9.4	9.5	6.5

下呂市の最南端にある金山地域には飛騨川と馬瀬川の合流点があり、飛騨国と美濃国の境界に、江戸時代には4つの藩(天領、尾張藩、郡上藩及び苗木藩)の国境に位置していました。川の合流点には渡し船や口留番所、その周辺には宿場町が形成され、人々の往来で賑わっていたと考えられています。宿場町の中には「筋骨」と呼ばれる細い路地裏が張り巡らされ、住民の生活にかかせないものとなっていました。その路地裏を案内するガイドツアー「筋骨めぐり」が人気のコンテンツとなり、下呂温泉と合わせた旅行商品として集客しています。その他、様々なメディアで紹介されており、ニッチな客層を取り込んでいます。

太陽光の角度から暦を計測していたとされる「金山巨石群」では、定期的に行われる太陽観測会のリピーター参加が多く、固定ファンの獲得に成功しています。映画のロケ地として取り上げられたことから、筋骨めぐり同様、聖地巡礼目的の来訪が増加する可能性があります。その他、笹洞蛍石鉱山ミネラルハンティングガイドツアー等、人気のコンテンツが開発されています。

### 主な地域課題

- ・地域内の連携や推進体制の強化
- ・地域の合意形成
- ・オーバーツーリズム対策
- ・地域産品の開発



## 【馬瀬地域】

### 宿泊者数

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
宿泊者数(人)	20,213	9,435	7,790	10,348	9,435
市内割合(%)	1.8	1.7	1.3	1.1	0.9

### 観光入込数

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
入込者数(人)	79,019	37,934	35,313	60,610	68,559
市内割合(%)	3.1	2.9	2.5	2.9	3.3

下呂市の西側を流れる清流馬瀬川に沿って集落が点在する馬瀬地域は、「全国水の郷 100選」(国土庁)、「全国水源の森 100選」(林野庁)、「平成の名水百選」(環境省)に選定され、日本の里山原風景を色濃く残している地域です。また、「日本で最も美しい村」連合にも加盟しています。温泉ファンに人気の南飛驒馬瀬川温泉「美輝の里」や、夏に家族連れて賑わう「カオレオートキャンプ場」があります。

森と里山、川、そして人の生業の結びつきを意識し、地域独自の自然生態系(馬瀬川エコリバーシステム)の中で循環型社会を目指す活動が行われており、2003年には我が国で初めて、同流域の国有林約 1900ヘクタールを「溪流魚付保全林」として林野庁から指定を受けました。馬瀬川には全国の太公望が訪れる、鮎の友釣りの盛んな川です。また、地域に伝わる「火ぶり漁」という伝統漁法を観光コンテンツ化し、集客に成功しています。2023年9月に高知県で開催された「第24回清流めぐり利き鮎会」においては、馬瀬川の鮎が全国チャンピオンに選ばれました。これまで行ってきた自然環境への活動が実を結んだものと考えられます。

### 主な地域課題

- ・地域内の推進体制強化
- ・各資源、商品のパッケージ化
- ・二次交通の整備



令和7年3月

下呂市役所観光課